

日西墨比貿易港之碑

Monument of Trade between Spain・Mexico・Manila via Uraga

慶長 3 年（1598）、徳川家康はスペイン（西）領メキシコ（墨）から新製錬技術を導入するため、スペイン領マニラ（比）からメキシコのアカプルコ港へ向かうスペイン商船（ガレオン船）を浦賀湊に寄港させるよう交渉した。そのため慶長 5 年（1600）に上陸した英人ウィリアム・アダムス（日本名・三浦按針）を顧問とし、江戸邸のほか三浦郡逸見村の采地と浦賀邸を与えた。三浦按針はマニラにも渡海し浦賀貿易再開のために尽力した。江戸・浦賀・静岡・伏見・大阪にはフランシスコ会修道院が創設され、浦賀洲崎にはスペイン人を保護する高札が立てられた。この浦賀貿易を管轄していたのが船奉行向井将監忠勝である。

浦賀湊には前フィリピン総督ロドリゴ・デ・ビベロ・イ・アベルサやメキシコ副王の使節セバスチャン・ビスカイノが訪れ、三浦按針建造のブエナ・ベントゥーラ号はロドリゴの帰国のために提供され浦賀を出帆し、幕府船として初めて太平洋横断を果たした。伊達政宗の遣欧船サン・ファン・パウティスタ号もスペイン国王使節ディエゴ・デ・サンタ・カタリナを乗せ入港している。

三浦按針の母国との通商成立は来日から 14 年目であり、その 3 か月後の慶長 18 年（1613）12 月全国にバテレン追放令が公布された。元和 2 年（1616）貿易港は長崎・平戸に限定され、三浦按針が平戸への移住を余儀なくされるまで、浦賀は長崎と並ぶ東国唯一の国際貿易港として重要な役割を果たした。

2019 年 4 月吉日 建之

建碑発起人 浦賀湊を世界文化遺産にする会

撰 文 日本海事史学会 鈴木かほる

建碑賛同人 東叶神社氏子会

寄付者一同（裏面に記載）